



# まんだらげ

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

2019 SPRING Vol.48



七川ダム桜(古座川町)

## Contents

### 新年度のごあいさつ

- 特集**…………… 減量手術(肥満外科手術)開始
- Topics**…………… 膵臓癌に対する樹状細胞ワクチンの開発  
平成30年度 がんのリハビリテーション  
研修会 in 和歌山 開催  
こども薬剤師体験イベント開催
- Information** …… 5Gを使った遠隔診療の実証試験  
車椅子寄贈  
食事と健康Q&A

### 理念

私たちは安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

### 基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、十分な説明と同意のもとに、安全で心のこもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

## 病院長あいさつ



### 患者さんに優しい 大学病院を目指して

病院長・外科学第2講座(消化器・内分泌・小児外科)教授

### 山上 裕機

当院では、平成29年4月から「患者さんに優しい病院づくり」に取り組んでまいりました。昨年度は院内の案内表示をより分かりやすいものに改善し、患者さんが目的の場所にスムーズに来られるようにするとともに、患者さんに待ち時間を少しでも有効に使っていただくため、スマートフォンで待合番号モニターを確認できるシステムを導入しました。今後は、患者さんの治療をより円滑に安全に進められるように、入院前の早い段階で患者さんの基本情報を取得し、持参薬のチェックを行うことを考えています。平成30年4月からは、この患者さんの基本情報の取得の一環として、65歳以上の入院患者さんに対し、認知症のスクリーニング検査を実施しています。この検査を行うことで、入院中の転倒・転落や服薬間違いなどを防止でき、患者さんの安全確保につながっています。現在は、まだ一部の診療科のみですが、今後は、対象診療科を拡大し、実施していく予定です。県民の医療に責任を持つ県立病院として、患者さんの信頼に応えられる病院を目指していきます。

また、当院は、質の高い医学研究を基にした高度先進医療を推進し、医学教育を実施する能力を備えた大学附属病院(特定機能病院)でもあります。県内唯一の特定機能病院として県民の皆様へ高度な医療を提供するとともに、研究拠点病院として高度な臨床研究を推進していくことが当院の使命です。当院では、これまで『医療法に基づく臨床研究中核病院』の承認に向けて、職員一丸となって体制整備に取り組んできました。臨床研究中核病院に承認されれば、日本のリーダーとして臨床研究を推進していくことができ、学生教育のレベルアップや優れた医療人の育成、地域医療の充実につながっていくと考えています。今後は、地域の基幹病院も含めた臨床研究ネットワークの構築にも取り組んでいきます。

診療面では、あらゆる分野の疾患に対して総合的に診療ができる体制を整えるとともに、がんの診療の充実にも力を入れています。平成24年から手術支援ロボット『ダヴィンチS』を導入し、前立腺がんや腎がんの低侵襲手術に用いることで、患者さんに優しい治療を実践してきました。平成29年12月からは、最新のロボットである『ダヴィンチXi』と『ダヴィンチSi』の2台の手術支援ロボットを導入し、平成30年4月から保険収載された胃がん手術にも対応しています。

さらに、平成30年10月には「がん遺伝子検査外来」を開設し、患者さんひとりひとりのがんの遺伝子変異を見つけて治療を行うがんゲノム医療を導入しました。これまでのがん診療では、がんの性質に合わせた治療が行われてきましたが、今後はいわゆる「個別化医療“precision medicine”」の提供が重要となってきます。当院は、平成30年4月にがんゲノム医療を推進するための「がんゲノム医療連携病院」に指定されており、「がん遺伝子検査外来」において、腫瘍組織や血液を用いた多遺伝子パネル検査により遺伝子変異を検出し、その結果に基づいた薬物療法の情報提供を行っていきます。

以上のように、当院では大学病院として最先端機能の充実を図っており、ますます皆様の期待に応えられるよう努めるとともに、「患者さん目線の病院づくり」を引き続き推進してまいります。

平成31年4月1日



## 高度先進医療を 安全に

副院長・脳神経外科学講座教授  
**中尾 直之**

和歌山県立医科大学附属病院の大きな使命は、県内医療機関の中核として皆様に「高度な先進医療を提供する」ことにあります。実際、本学附属病院では内科系および外科系の各診療科において目下多くの高難度技術を必要とする治療が活発に行われています。治療法が高度になればなるほど、その安全性を担保することが重要となってきます。このため私たち病院スタッフは病院をあげて医療の安全性確保のための様々な取り組みを行っています。

これからも微力ではありますが、副院長として、医療安全管理責任者として、皆様方が安心して良質な医療を受けていただけるようにより一層の努力を続けてまいります。



## 県内医療の 維持・発展

副院長・眼科学講座教授  
**雑賀 司珠也**

副院長を拝命しております眼科学講座の雑賀司珠也です。和歌山県立医大の位置する紀三井寺で生まれ育ち、附属病院から見える明和中学校は母校です。自身の故郷、和歌山県の医療のさらなる充実のために和歌山県立医大附属病院がなすべきことを考え、山上裕機病院長のリーダーシップのもとで邁進したいと考えています。

これまで11年間の眼科学講座教授としての眼科地域医療の充実に向けた取り組みと2年間の副院長の経験と反省を最大限に生かして頑張る所存です。

皆様のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



## 皆様に信頼される 開かれた特定機能 病院をめざします

副院長・脳神経内科学講座教授  
**伊東 秀文**

二期目となる山上病院長体制の下で引き続き副院長を拝命し、身の引き締まる思いです。和歌山県は超高齢化や災害への対策など多くの課題を抱え、将来に不安を感じておられる皆様も少なくないと思います。

当院は厚労省が承認する県内唯一の特定機能病院として、有効性が高く安全で身体への負担の少ない、高度先進医療をお届けするのはもちろんのこと、患者さんの視点に立って、受診しやすく、わかりやすく、納得して治療が受けられる環境を整備し、医大に行けば安心、と思っただけのような、信頼される病院になるよう努力して参ります。



## 在宅と入院を紡ぐ 看護を提供

副院長・看護部長  
**角谷 知恵美**

引き続き副院長・看護部長を務めさせていただくことになりました。

2025年を迎えるにあたり、病院・病床機能を分化、連携し、在宅医療を推進する地域包括ケアシステムが導入されてきました。

和歌山県ではますます高齢化が進み、病気を抱えて在宅医療をしておられる高齢者世帯が急増しています。そのため、在宅と入院治療を紡ぐ看護職の役割が発揮できる体制を整備したいと思っています。

これからも患者さんの尊厳を守り、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう支援を続けてまいります。



# 減量手術 (肥満外科)

当院消化器外科では、「減量手術(肥満外科手術)」を開始

## 肥満症 とは

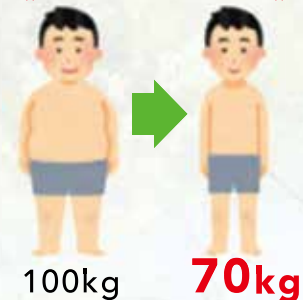
「肥満症」は単に太っている状態ではありません。「治療すべき病気」です。治療がうまく行かない場合、さまざまな病気により生活の質が落ちるだけでなく、生命に危険が及ぶ可能性が

高くなります。肥満症治療の基本は、「食事療法」、「運動療法」、「内科的治療」であることに間違いはありませんが、それだけでは不十分な患者さんが多いのも事実です。

## 減量手術 とは

「減量手術」は、内科的治療に比べ、長期にわたる減量効果(約30%の体重減少)及び肥満関連疾患(糖尿病・脂質異常症・高血圧・睡眠時無呼吸症候群)の改善効果が著しく高く、さらに患者さんのその後の全死亡率を約30%減少させることが証明されています(図1)。

(図1) **30%減量**



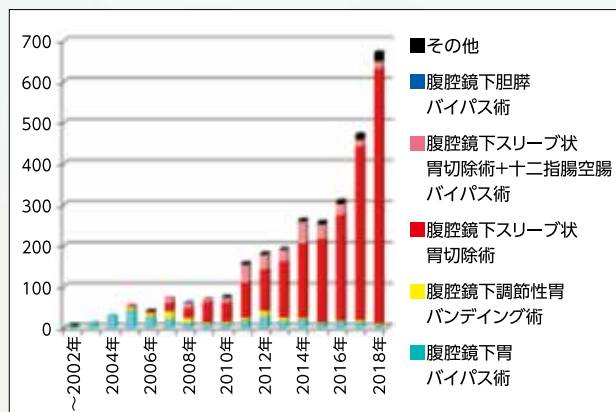
	糖尿病	高血圧症	脂質異常症
改善率	85%	66%	63%

ここでいう改善率は、「投薬がなくとも、血液検査データ、血圧が改善した患者さんの割合」です。内服量が減量でき、データが改善したという患者さんまで含めれば、もっと数字が上がることになります。

参考文献

- N Engl J Med 2007 357, 741-752
- Obes Surg 2017 27, 754-762

(図2)



「減量手術」は、全世界では年間約60万件行われている手術です。日本でも2014年より施設条件付きで保険適応となり手術件数が増えてきました。2018年には全国で年間671件が行われています(図2)。減量手術にはさまざまな術式がありますが、日本では安全性の高い、「腹腔鏡下スリーブ状胃切除術」が唯一保険診療で認められている肥満外科手術であり、当院でも採用しています(傷は最大で1.5cm)。

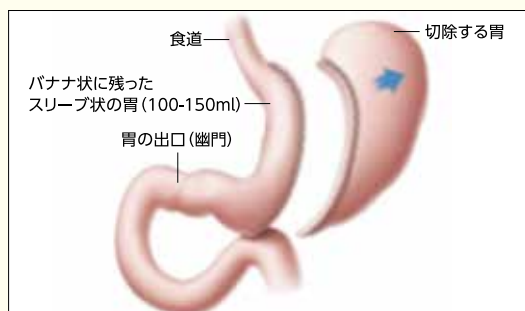
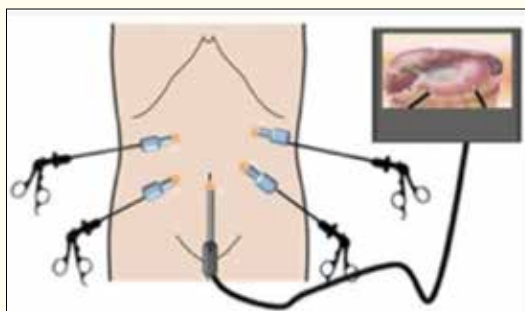
# 手術) 開始

し、2018年12月に和歌山県初となる減量手術1例目を施行しました。

手術適応は年齢が18歳から65歳まで、BMI 35 kg/m<sup>2</sup>以上(初診時) (BMI=体重kg÷身長m÷身長m) かつ関連疾患(糖尿病・脂質異常症・高血圧・睡眠時無呼吸症候群)のいずれかを有し

ていることです。術前には、リハビリ、栄養指導、減量入院などで筋肉の量を落とすことなく減量を行います。通常は術後半年くらいまでは体重が減少し続け、その後安定します。

## 「腹腔鏡下スリーブ胃切除術」の概要 (図3)



- 5mm3か所、12mm1か所、15mm1か所の小さな穴を5か所用いた腹腔鏡手術で行います。(切除した胃は15mmの傷から取り出せます。)
- 胃をバナナのように細くします(残る胃の容量は100-150ml、もともとの胃の約1/10に縮小)。
- 小さな胃で食事摂取量を制限し、少量の食事で満腹感が得られます。
- 食欲増進ホルモンのグレリンが減少するため、食欲自体もコントロールできます。



術後早期のため、創部は赤みを帯びていますが、術後1年経過すると傷はほとんどわからなくなります。(患者さんの許可を得て掲載)

当院では2018年12月から2例の減量手術を経験しており、いずれも術後合併症はなく、安全に手術を導入できています。1例目の患者さんでは、術後1ヵ月半で術前より体重が18kg減少し、肥満関連疾患も全て改善しています。

費用は通常の保険診療での治療となりますが、5例目までは手術費用(70万円)を大学で負担させていただきます。安全・安心の手術を提供する

ために、減量手術はすべて日本内視鏡外科学会技術認定医(胃)かつ消化器外科専門医が担当しています。

また、当院では肥満症治療チーム(外科、内科、病態栄養治療部、リハビリテーション科、神経精神科、看護師、医療ソーシャルワーカー等)により、きめ細かい医療を行っており、減量手術を施行するための万全のサポート体制を整えております。

## 膵臓癌に対する樹状細胞ワクチンの開発～治験実施施設を拡大し、有効性検証へ～



膵臓癌は肺癌、胃癌、結腸癌に次いで4番目に多い癌で、60%～70%の患者さんが診断時にはすでに遠隔転移などの高度進行状態であるため、難治性の悪性腫瘍と言われています。国内のがん全体の死亡率が下がっているなか、膵臓癌は上昇傾向にあり、新しい有効な治療法の開発が急務となっています。

本学の外科学第2講座の山上裕機教授らの研究チームでは、これまで国内初の膵臓癌に対する樹状細胞ワクチン開発に向けた医師主導治験を進めてきました。樹状細胞ワクチンとは、がんを攻撃するT細胞に司令を出す樹状細胞を成分採血により作製し成熟させ、がんの目

印となるがん抗原(ペプチド)を取り込ませたものです。これを体内に投与することでT細胞を活性化し、がん細胞を特異的に攻撃させます。免疫療法と呼ばれる治療法で、薬物療法や放射線治療などの標準療法と比べ、副作用が少ないのが特徴です。

この樹状細胞ワクチンを一昨年5月から標準治療で効果が見込めない患者さんに対し、実薬群とプラセボ(偽薬)群に無作為に分けて投与する治験を開始しています。そして、昨年12月には中間解析により、実薬投与の患者さんに重い副作用がないなど、その安全性が効果安全性評価委員会により確認されました。これを受け、治験の実施施設を全国の医療機関に拡大し、より多くの施設で有効性の検証を進めていくことになりました。全国の医療機関で本治験を進めることで、日本各地の患者さんがこの治験治療を受けることができることとなり、また迅速に有効性の検証に必要なデータを集積できることが期待されます。そして、最終的には樹状細胞ワクチンが膵臓癌に対する新薬として保険承認されることを目指していきます。

## 平成30年度 がんのリハビリテーション研修会 in 和歌山 開催!

2月9日(土)、2月10日(日)の2日間、「平成30年度がんのリハビリテーション研修会in和歌山」を開催しました。当院では、がんの治療を受けられる患者さんの術前から積極的にリハビリテーション治療を開始し、体力や筋力が衰えないように努めています。チーム医療の観点から、多



職種ががん領域でのリハビリテーション治療に関するスキルや専門知識を習得することで、地域のがん患者さんの療養生活の質

的向上に資することを目的として、平成25年より毎年標記研修会を開催しています。

今回は県内外から13施設75名の医師、看護師、理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士に受講いただきました。がんの種別毎の周術期リハビリテーションや歩行障害・基本動作障害に対するアプローチなどについての講義に加え、がんのリハビリテーションに関する問題点等についてのグループワークを実施しました。積極的な意見交換を行うことで、受講者のレベルアップや日頃の疑問等の解決を図りました。

今後も患者さんがより質の高い人生が送れるように、「がんのリハビリテーション」の充実・発展に努めていきます。



## こども薬剤師体験イベント開催!



当院の薬剤部では、子どもたちに薬剤師の仕事やくすりについて興味を持ってもらうことを目的として、平成26年より「こども薬剤師体験イベント」を開催しています。毎年多くの申込みがあり、今年は1月27日(日)に開催しました。

当日は午前・午後の部を合わせ、小学生43名とその保護者に参加していただきました。子どもたちは、薬剤師の仕事を紹介したDVDを鑑賞したのち、くすりに関するクイズや実際に働く現場の見学をするなど、薬剤師の仕事について学びました。また、体験コーナーでは、薬剤部のスタッフの指導の下、ジュースやお菓子などを使った模擬調剤を行い、会場に設置された分包機でくすりが分包される様子も見学しました。



白衣を着て参加した子どもたちは、熱心に質問をするなど薬剤師の仕事に関心を深める一日となりました。

## 5Gを使った遠隔診療の実証試験

平成29年度から、第5世代移動通信システム「5G」を活用した遠隔医療の実用化に向け、株式会社NTTドコモ及び和歌山県と共同して遠隔診療の実証試験を行っています。平成31年1月に行われた実証試験は、新たな試みとして、患者宅等の訪問診療先と医大とをつないで遠隔診療を行い、またデモンストレーションとして、医大から40km離れた診療所で働く若手医師に対し、医大の消化器内科専門医による胃カメラ操作の遠隔教育を行いました。

5Gにより高精細な映像をリアルタイムに伝送できるため、医師と患者とのコミュニケーションも図りやすく、また、接写カメラや超音波診断装置などの医療機器の映像も併せて高精細に伝送することで、遠隔診療の高度化、診断精度の向上、診断時間の短時間化を図れるほか、遠隔指導にも役立ちます。



「5G」を活用した遠隔診療が実用化されると、場所を問わず遠隔診療ができるようになり、都市部と地方の間の医療格差をなくすことができます。また、へき地等の診療所で働く若手医師のレベルアップが図れ、若手医師が安心して働くことができます。山間部が多く、診療所が点在する本県では、実用化に向け、今後も実証試験に積極的に協力していきます。

## 車椅子寄贈



この度、和歌山県トラック協会青年協議会から社会貢献活動の一環として、車椅子を5台寄贈いただきました。平成31年2月に同協議会会長の虎谷勝之さん、副会長の大原伸規さんと大浦紹宏さんが当院を訪問され、贈呈式が行われました。贈呈式では、本学の幸前裕之副理事長が虎谷会長に感謝状を贈りました。虎谷会長は「平成15年度から医療機関への車椅子の寄付をしています。今後も地域の方々への貢献活動を続けていきたい。」と話されました。これに対し、幸前副理事長は「当院ではリハビリテーションを活発に行っており、院内の移動にたくさんの方が車椅子を使っていますので、大変ありがたいです。」と話しました。

食事と健康

Q&A

**Q** からだに良い油はありますか？  
また気をつけた方が良い油はありますか？

**A** 健康に良い油として注目されているのはサンマやイワシ、ブリなどの青魚に含まれるEPAやDHAなどです。悪玉コレステロールや中性脂肪を減らしたり、血液をサラサラにする作用があります。また、脳の機能を高める作用もあるとされています。魚の調理は面倒なイメージがあるかもしれませんが、サバの缶詰でも手軽にEPAやDHAがとれるので、おすすめです。

とりすぎに注意が必要なのは、「飽和脂肪酸」と呼ばれる油です。常温で固形の油で、肉の脂身やベーコン、バターや乳製品に多く含まれます。とりすぎるとコレステロールや中性脂肪を増やし、動脈硬化のリスクを高める恐れがあります。



## 予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「**予約制**」とさせていただきます。  
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

### ■医療機関からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて患者支援センターにFAX送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- ③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

**患者支援センター**  
FAX番号: 073-441-0805  
受付時間: 月・火・水・金 9:00～19:00  
木 9:00～17:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

### ■ご本人からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。  
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 「**当院予約センター**」に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

**電話予約センター**

電話番号: 073-441-0489  
受付時間: 月～金 8:30～16:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

## 患者相談窓口を整備しました!

当院では、患者相談窓口の相談ブースの改修を行いました。  
今後も、患者さんやご家族のプライバシー保持に努め、「入りやすい」「声をかけやすい」をコンセプトに相談窓口を運営していきます。

**患者相談窓口**

- \*受付時間 平日9:00～17:00
- \*場所 2階総合受付隣
- \*相談内容 医療費、療養生活・転院先、利用できる社会保障制度など



### 患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

### 患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

### <外来受付時間>

- ・受付時間 午前8時50分～午前11時30分
- ・再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
- ・休診日/土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)

※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。